

第3回総合戦略推進アドバイザー懇談会議事録

日時		令和元年6月27日(木) 13時30分～15時00分
場所		生涯学習センター 203号室
委員	出席者 (敬称略)	【産】 (株)フジイ代表取締役 金森 薫 【官】 岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センター長 原 永子 【学】 中部学院大学短期大学部幼児教育学科教授 杉山 祐子 【金】 東濃信用金庫美濃加茂支店長 渡辺 洋一 横山 幸子 【労】 ハローワーク美濃加茂所長 山下 保 【言】 みのかもフリーペーパー歩好里人 安藤 摩里
事務局		経営企画部長:渡邊 企画課 課長:斎木 係長:井戸 山口

1 開会

2 経営企画部長 あいさつ

3 平成30年度 KPI 実績について

【事務局】

- ・達成率は、約 55%である。
- ・今年度の測定をもって最終的な達成状況が分かる。

4 第2期アクションプラン対象事業について

【事務局】

(対象事業について)

- ・庁内でヒアリングを行い、女性活躍に繋がる可能性のある事業について抽出した。
- ・女性活躍推進計画や子育て支援の充実に関連する部分について、対象事業を増やしている。
- ・企業や市民に対する様々な助成制度について、知っていただくために、しっかりと位置づけていきたい。
- ・子育て支援の充実をしっかりと発信していきたい。
- ・現在の対象が53事業あるため、ここから戦略としてやるべきものを絞り込んでいく。

(国の基本方針について)

- ・国の総合戦略が具体的に示されるのは、12月となっている。
- ・国の総合戦略を考慮しなければならないが、予定通り策定を進め、最終的に整合性を整理していく。

- ・国の方法性も第1期の内容を継続的に取り組んでいくとしている。
(カミーノの体系図について)
- ・ライフステージごとにある3つの項目を続けていくことに加えて、意見をいただく中で、必要な項目を追加していきたい。
- ・KPI数値目標について、ライフスタイルは再挑戦(数値は検討)、出会い結婚・妊娠出産は継続、子育て上方修正、教育は再検討することで考えている。

5 意見交換

【アドバイザーからの意見】

(県の働き方に関する企業支援)

- ・イクボス養成講座と企業の要望に応じて講師を派遣する働き方改革研修を行っている。ぜひ活用いただけると良い。
- ・女性の活躍推進課の企画係で企業のワークライフバランスを推進する事業を持っているが、センターでは、エクセレント企業との合同説明会やアイデアを事業に結びつけることを行っている。
- ・毎年、ワークライフバランス推進エクセレント企業の認定を行い、冊子を作っている。この認定制度は、認定がゴールではなく、認定受けたうえで、さらに他の制度を活用して発展していくことにつながっている。30年度は31社を新たに認定された。
- ・東濃信用金庫のカンガルーポケットや女性の活躍を推進している様子を載せていただいている。
- ・小さい企業は、認定されても、それを維持することやさらに推進していくことが厳しいところもある。
- ・市町村は、県の制度に企業を結びつけるために、発掘、聞き取りや情報提供を行っている。積極的に取り組んでいる市町村には、県もアドバイザーを派遣して、企業の発展に繋げていきたい。企画係に情報提供いただければ、担当職員が行ってアドバイスもできるため、活用いただきたい。

(出会い・結婚について)

- ・同窓会や同期会に対して支援する制度があると良いのではないかな。
- ・同窓会を地元の企業を行う場合に支援する自治体がある。地域の人がつながって活性化になる考えで年齢関係なく支援できるのではないかな。
- ・まちカフェに参加する人は多い。1対1の出会いよりも、たくさんの人と気軽に出会える場所のほうが良いのではないかな。
- ・企業同士の婚活の話はよくある。男性の多い企業と女性の多い企業とが集まるイベントをやっている事例がある。
- ・業界によって、出会いのきっかけがないところがある。
- ・県では、結婚支援を応援する人を登録してもらっている。年配の人が多く、もう少し若

い人になってもらえると良い。

- ・1回きりではなくはなく、継続してやっていくことが必要。
 - ・結婚ありきは難しいため、結果的につながるくらいが良い。
 - ・ミーツアップという、こんなことやりたいとアップして、行きたい人が参加するサイトがある。
- 同じ趣味の人が集まるため、話が合う。
- ・結婚相談支援員という資格がある。講座を数日受ければ取得可能。
 - ・親向けの相談もある。
 - ・婚活カフェを開催したことがあるが、女性は一瞬で判断する、男性は話しかけることができない課題が分かり、セミナーをやってからでないと難しい。

(妊娠・出産について)

- ・2人、3人目を生むことができるのは、育休がしっかりしている・復帰ができる、看護師や教員と専業主婦が多い。
- ・カンガルーポケットにおいて、6・7割が子ども2人以上でも復帰できている。会社とつながる会を2か月に1回開催することによる不安の軽減と子どもを育てることへの心づもりを持ってもらう。育休者には全て声をかけている。
- ・育休中の支援・セミナーのニーズは高い。
- ・セミナーは夫婦の関係性を見直す良い機会でもある。生涯一緒に居られるかは育休中にかかっているかもしれない。
- ・子育ての環境が整っていることが安心できる。
- ・保育園の空きがないことが復帰できないことになるため、事業所内保育があると助かる。
- ・事業所内保育が安いことはありがたい。
- ・保育士が集まらないことによって預けられないところもある。
- ・学生(保育士)は求人サイトを使って、仕事を探している。
- ・無償化によって本当に預けるべき人が預けられないことも考えられる。
- ・育休3年は長いと思う。
- ・専業主婦においては、働かなくても安定しているか、親と同居していることが多い。
- ・働く女性が増えていくことも大事だが、そうした女性が次の世代を支えることや、ボランティア活動をはじめるとも大事だと考える。
- ・専業主婦が見守り活動・地域の担い手になってくれることも良い。

【事務局】

- ・婚活イベントをやっても女性が集まらない。
- ・出会い対してどこまで行政が関わるべきか難しい部分がある。
- ・過去に同窓会を補助する話はあったが、対象を限定することが難しい。
- ・子育てに関する包括支援センターの設置に向けて進めている。
- ・事業所内保育と企業主導型保育の2種類あり、基準が異なっている。
- ・公立保育園も保育士の確保が難しい。